

学生支える「100円カレー」

コロナ禍 徳島文理大が提供



1日限定50食の100円カレーを受け取る学生たち
—香川県さぬき市の徳島文理大香川キャンパス

新型コロナウイルス禍による学生の経済的な負担を軽減しようと、徳島文理大の徳島、香川両キャンパスの学生食堂が1日限定各50食の「100円カレー」と「50円うどん」を提供し、

好評を博している。今年度の授業開始に合わせ実施。通常、素うどんは190円、カレーライス(ミニサラダ付き)は370円で、差額は大学が補助。昼食時間帯前に食券が

売り切れになるといふ。

香川キャンパス(香川県さぬき市)の学生約1300人中、6割が下宿。平成26年9月に保護者の要望を受けて「100円朝食」(通常300円)を開始するなど、食の面で学生を支援してきた。新型コロナ禍で「生活費の逼迫で食費が削られがち」と、今回の支援策を決めた。

正午を過ぎると、学生食堂にはうどんを求める数十人の列が。50円うどんを食べていた文学部3年、小比賀菜央さん(20)は「安いので食券を買えたら食べる。アルバイト先の店が休業するなど収入は減少。財布にも学生にも優しく、ありがたい」と話していた。

同大では、昨年5月に全学生へ特別奨学金5万円を給付したほか、リモート授業のためのパソコン貸与、韓国の留学生への配信などの対策をとってきた。学内で感染が確認された際にリモート授業に移行する体制も整えている。

新型コロナ禍をめぐっては経済的な理由により、各地の大学・短大で学生が中退や休学に追い込まれる事態が発生。香川キャンパスの野崎泰博学生部長は「昨年度は幸いにもそうした事例はないが、長期化により懸念は強まっている。大学の教育を止めないことを最優先し、今後にも必要な対応を検討していく」と話す。

●香川県、コロナ警戒レベルを最上位に引き上げ
香川県は、新型コロナウィルス感染者が8日発表で県内過去最多の78人となったのを受け、県独自の「非常事態宣言」を出し、6段階ある独自警戒レベルを初めて最も上の「緊急事態対策期」に引き上げた。31日まで。